

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業	事務事業名 登別市子ども地域交流プラザ事業補助金
-------------------	---------------------------------

区分	番号	名 称
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む
施策	3	青少年が健やかに地域で育つ環境づくり
小分類	1	地域との連携による青少年の健全育成
主要な施策	1	青少年の健全育成
事務事業番号	005	事務事業コード 52311005 事業開始年度 平成 元 年度 事業終了年度 平成 2 2 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	登別市子ども地域交流プラザ事業補助金
------	------	------------	--------------------

部 名	教育部	グループ名	社会教育 G
-----	-----	-------	--------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #ffff00; margin: 0;">（事務事業の実施目的を具体的に記載してください）</p> 児童・生徒に、自然や生活などの体験の場を提供し、地域の方や保護者との交流を通して、豊かな心を育む活動を展開している「登別市子ども地域交流プラザ運営委員会」を支援する。
手段（事業の内容・活動）	<p style="background-color: #ffff00; margin: 0;">（目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください）</p> 各中学校区（5校）と札幌・来馬地区に設置した運営委員会では、児童・生徒を対象にした自然や生活などの体験事業を計画し取り組んでいる（田植え、鮭の稚魚の放流など）。また、各中学校区の運営委員会を統括する運営委員会では、ふれあい農園や巡視船体験乗船、海岸清掃と地引網体験などの事業を行っている。これらの事業を行う登別市子ども地域交流プラザ運営委員会に補助金を交付し支援する。 そのほか、児童・生徒が、異年齢（学年）の交流を行う場として、社会教育施設や市有施設を開放している（第2・4土曜日）。
成果	<p style="background-color: #ffff00; margin: 0;">（事務事業の実施成果を具体的に記載してください）</p> 児童・生徒に、自然や生活などの体験の場を提供することにより、地域の方や保護者との交流を通して、豊かな心を育むとともに「生きる力」を身に付けさせることができた。
根拠法令等	<p style="background-color: #ffff00; margin: 0;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください）</p>

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	事業参加者数	人	目標値	3,900				
			実績値	2,946				
			目標値					
			実績値					

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	1,000					0
合 計				1,000	0	0	0	0	0
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	687	0			
			嘱 託 員	千円	47	0			
			臨時職員	千円	13	0			
			合 計		747	0			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 子供たちの休日の居場所づくりとしての事業であり、青少年健全育成の観点からも必要な事業であるため。ただし、他事業との統合について検討する余地がある。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 各地区で地域の特性を活かした事業を展開しており、身近な自然やふるさとを再発見するきっかけとなっている。 また、子どもを核とした地域コミュニティの再生・拡大にも効果が現れている。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 地域の実情や参加者のニーズに応じた事業を行うことで、成果の向上が期待できる。 ただし、少子化傾向であるため参加者数での年度比較で成果を押し量ることは難しい。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 運営委員会の事業については、運営スタッフはもとより講師等についてもほぼ全てがボランティアで運営されている。 また、各地区事業への予算配分についても、運営委員会内で創意工夫に努めており、成果を落とさずに予算を削減することは難しい。

担当グループによる評価

終了	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	運営委員会の事業は子どもの居場所として定着しているだけでなく、事業に携わる地域の大人にとっても、コミュニケーションの場として生きがいづくりの機会となっている。このような「住民力」を高める事業については、行政としてもバックアップしていく必要があると考え、学校支援地域本部事業に組み入れて更なる発展を図りたい。
----	----------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

終了	備考
----	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力で推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）